

日本小児感染症学会若手会員研修会第6回瀬戸内セミナー

今年のセミナーの概要

田中敏博*

水戸で産声をあげた本セミナーは、安曇野、磐梯熱海と場所を変え、回を重ねて、第6回となる今回は、岡山大学の小田先生のリードにより岡山県の児島で、通称：瀬戸内セミナーということでの開催となりました。

過去5回のセミナーにおける試行錯誤の積み重ねにより、グループワークと懇親を2本柱としたスタイルがほぼ確立されてきました。第6回目の今回は、そこに「ジュニアチューター制度」を導入したことが最大の目玉であったと思います。もともと、若手会員が小児感染症領域のエキスパートの先生方と直に触れ合っ…というコンセプトでありましたが、グループワークや懇親を深めていこうとするプロセスにおいて、年齢、役職、知識・経験などなどのさまざまな面で縮まりきらない距離感のようなものがあつたのではないかと思います。その点の橋渡し役として、ジュニアチューター制度が浮上してきました。そして、過去に本セミナーに参加したことがあるか、もしくはかかわったことのある若手会員のなかで、その後もこの領域でご活躍中の先生方にお声がけし、ご協力をいただくことになった次第です。セミナーの開催前の準備から実際の2日間のディスカッション、開催後の論文のまとめまで、グルー

プワークを進めていくなかで、担当する各グループの舵とり、リーダー役を担当していただきました。その効果、成果を、参加者の頑張りとともに、この若手セミナー特集の原稿のなかから感じとっていただければ幸いです。

来年の第7回は、静岡県に舞台を移しての開催となる予定です。意欲ある若手会員の参加をお待ちしております。その思いに応えられるよう、われわれもより充実したプログラムの準備にあたります。

最後になりますが、岡山県児島での開催にあたり、獅子奮迅のご活躍をいただきました地元事務局の岡山大学 小田慈先生、お手伝いのためにフル回転してくださった小児科の先生方、特別講演を賜りました岡山大学 塚原宏一先生、アドバイザーとしてご参加いただき、若手会員と大いに交流を図っていただきました川崎医科大学 尾内一信先生、中野貴司先生に深謝いたします。また、例年、春の段階からこの学会誌の出る冬場まで縁の下の方力持ちとして本セミナーを支えてくださっています学会事務局の楠さん、高橋さんのご尽力、優しいお気遣いに、厚くお礼申しあげます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

* * *

* JA 静岡厚生連静岡厚生病院小児科/日本小児感染症学会研究教育委員会若手セミナー担当